

令和7年度 厚木市障害者協議会 第2回 一貫した子育て・療育支援プロジェクト

日 時	令和8年2月20日(金) 午後2時～午後3時50分
場 所	厚木市役所第2庁舎15階 農業委員会会議室
出席者	厚木市障がい福祉課、厚木市教育委員会、厚木市こども家庭センター(こども保健第一係・こども相談係)、こども育成課、保育課、厚木保健福祉事務所、座間支援学校、伊勢原支援学校、えびな支援学校、やまびこ会(厚木市自閉症児者親の会)、厚木市手をつなぐ育成会、厚木市社会福祉協議会、えんじえるビレッジ金田、一般社団法人クロスオーバー大和 事務局：厚木市児童発達支援センター、厚木市障がい福祉課、厚木市障がい者基幹相談支センター(敬省略)
<p>1 開会 出席者自己紹介</p> <p>2 議題 (1) インクルーシブ教育～厚木市の取り組みについて～ 説明：教育指導課 厚木市では、令和8年度からインクルーシブ教育システムを本格的に導入する予定。このシステム「みんなの教室」という概念に基づいており、すべての児童生徒が通常の学級に所属することを前提としている。 基本理念： <ul style="list-style-type: none"> ○ 誰一人取り残すことなく、共に学び、共に育つことを目指す ○ 通常の学級がすべての児童生徒の所属場所である ○ 個別の困り感に対して適切な支援を提供する リソースルームの概念： <ul style="list-style-type: none"> ○ フリールーム、心の教室相談室、学びの教室、特別支援学級、国際教室、通級指導教室などすべてが支援機能として位置づけられる ○ マラソンの給水所のような役割を果たし、力を蓄えて通常の学級に戻ることを目的とする 人員配置： <ul style="list-style-type: none"> ○ インクルーシブ教育推進担当教員を各学校に配置 ○ 令和8年度からインクルーシブ支援員(従来の学カステップアップ支援員から名称変更)を配置 ○ インクルーシブ指導員(退職校長先生)を1名配置し、学校訪問による助言を実施 意見交換・情報共有 <ul style="list-style-type: none"> ・ 教室不足によりフリールームの設置が困難な学校があるのではないかと。 → 校長室など既存スペースの活用や柔軟な対応により、子どもたちの居場所を確保する工夫を検討する。 ・ 特別支援学級の位置づけがインクルーシブ教育システム内で曖昧ではないかと。 → 特別支援学級も通常の学級に所属する前提で、必要な支援を受ける場として位置づけを明確化する。 (2) 保育園における医療的ケア児の受け入れについて 説明：保育課 厚木市では保育園での医療的ケア児受け入れ体制を整備している。 現状： <ul style="list-style-type: none"> ○ 市内4カ所の保育園で医療的ケア児の受け入れを実施 ○ 看護師の配置により、医療的ケアが必要な児童への対応が可能 </p>	

今後の取り組み：

- ニーズ調査をアンケート形式で実施予定

医療的ケア児コーディネーターから

3月17日に厚木市内医療的ケア児コーディネーターの連絡会を開催予定

看護師の効果的な活用方法について検討

(医療的ケア児がいない時期の他園への支援等も含めて検討していく)

(3) 児童発達支援・放課後等デイサービス事業所連絡会について

説明；えんじえるビレッジ金田

事業所連絡会では、コロナ禍を経て活動を再開し、様々な取り組みを実施している。

事業所説明会：

- 令和7年11月24日（祝日）と25日（平日）に開催
- 25家族（24日）、45家族（25日）が参加
- 計108家族が参加し、前年より増加

研修体系の整備：

- 新人職員向けの初任者研修を体系化
- 中堅職員向けの研修プログラムを検討中
- 離職防止と職員の質向上を目的とする

学校との連携課題：

- 下校時間の連絡体制の改善が必要
- 海老名市で導入されているアプリシステムの活用を検討
- 駐車場問題や引き渡し時の安全確保が課題
- 個別ケースでの連携は進んでいるが、体系的な連携体制の構築が必要

意見交換・情報共有

- ・ 学校と放課後等デイサービス事業所間の情報共有が不十分である
- ・ 海老名市で導入されているアプリシステムの活用を検討し、下校時間等の情報を事業所と共有する仕組みを構築したらよいのでは。「tetoru」に事業所登録ができないのか。
- ・ 学校での送迎時の駐車場確保が困難である。特別支援学校では関係する事業所を集めて、話をする機会を作っていた。各学校との個別協議により、安全な送迎場所の確保について具体的な解決策を検討した方がよいのではないかと。

(4) その他

次年度もインクルーシブ教育推進をテーマとした会議を継続開催することが決定された。様々な角度からの情報提供と議論を通じて取り組みを深化させていきたい。

一般社団法人クロスオーバー大和

児童発達・放課後等デイサービス事業所連絡会について、多くの事業所ができており、合同説明会や研修など活動ができており、素晴らしいとの話あり。新規放課後等デイサービス事業所の利用希望者は多く、登録も増えていることから、相談との連携も必要を感じている。

各配布資料、研修等の説明

3 閉会

以上